

# 引用の仕方

説得力のある文章を書くために、他の人の文章の一部などを、自分の文章の中で使うことを「引用」という。引用するときには、次の点に注意しよう。

- ・世の中に公表されているものを使う。
- ・元の文章は改変せず、正確に引用する。
- ・自分の文章の補足として、その一部に使う。
- ・出典を明示する。(著作者名、書名、出版社名、発行年などを示す。)

## 文章の引用の仕方

■引用文が短い場合（引用部分を「」で示す例。）

清少納言は『枕草子』の中で、「にくきもの。急ぐことある折に来て、長言する客人。」（清少納言『枕草子』〇〇出版、二〇二二年）と書いている。忙しい時にやって来て、長々と話す客人は、いつの時代でも困り者なのである。

■引用文が長い場合（引用部分の前後を一行ずつあけ、引用文を二字下げて示す例。）

清少納言は、随筆『枕草子』の中で、次のように書いている。

うれしきもの。まだ見ぬ物語の一を見て、いみじうゆかしとのみ思ふが、残り見いてたる。

（清少納言『枕草子』〇〇出版、二〇二二年）

続きを読みたい、と心待ちにしていた本が手に入った。この時のうれしきは、現代の私たちにも共感できる。古典には、古い時代のあり様がさまざまに描かれている。時代や文化が違っていても、そこから学べることは多い。